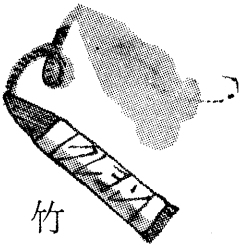
◆家庭と幼稚園◆

家庭と幼稚園―一日入園―

竹中京子



大自然の営みがはじまります春にはまだ早い三月ともなりますと、入園式を待ちわびていた子どもたちのように、つめたい土の中で、久しく耐えていた球根が前夜の雨にそっと顔をのぞかせてまいります。津々浦々の幼稚園が、あるいは大きく、あるいは小さく、いっせいに門を開いて、初めて入園してくる子どもたちをあたたかく迎えるために、準備を急ぐ姿が見られます。帽子掛にロッカーに、下駄箱にと、まだ見ぬ子どもたちの顔をえがきながら、何かと心をくだいている職員の姿は、春の光のようにあたたかく感じられます。

私たちの園では四月集団生活に入る前に、幼稚園とはこんなところであるということを、保護者の方々にご理解いただくために、保護者と子どもの一日入園をこころみる計画をいたしております。最初のこころみは、入園面接が十一月初旬から中旬にありますので、一ヵ月後に実施しております。

胸に組わけのリボンを係の先生につけていただき、親は保育室の入口まで子どもをつれてまいります。迎える先生の笑顔が、不安な子どもの心を大きくとらえて、一人二人と楽しく用意された保育室に吸い込まれるように入って、わりあいに早く遊びの仲間入りができることも、最近の子どもたちの姿かと存じます。泣いてなかなか親から離れない子どもも二、三人はおりますが、時間をかけて、離れられるまで、そのへんは自由にいたしております。保護者のために用意されたホールでは、最初の説明会ということで、病気欠席者をのぞいてほとんど出席されるのが最近の姿で、大変うれしく思っております。時間は正確に始めることが望ましく、園長のお話は、これからの園の方針と今後の保育の進めかたをわかりやすく話されます。注意事項などもできるだけ具体的な例を多く示して、知らせておくことも忘れてはならないと思います。

入園前の心配として、字がよめないので、自分の場所がわからないのではないか、気が弱いので親から離れなかったらどうしよ

うかなどは当然のことです。集団の中へ入れば心配なくやれるというようなことをいろいろお話しして、お母様方にそのためにはどんな配慮が必要であるかをよく話し合うことが大切であるように思います。四月入園までにこれだけは是非実行していただきたいと思いますことは、靴をぬぐ、はくこと、洋服のぬぎ着、食事の前には必ず手を洗うこと、口をすすぐこと、うがいを時々すること。それから用便なども、朝必ず習慣にしておくようにすることが、いろいろ遊びにも影響することをしばしば感じます。子どもたちの身のまわりのことがひとりでできるようにしておくことは、これからの長い人生の最初のよき習慣となり、力強い子どもとなって成長していく基礎が築かれることを考えて、手つだう手を休めて、見ている大人であってほしいと願うばかりです。規則正しい習慣が身についてしまいますと、自分で何でもしてみたい時ですから、何度でも失敗を恐れないでさせてみることです。ただ、何でもためさせてみるといっても、これからの生活には明らかに危険であるということもでてきます。あらゆるできごとを、ふれあいの中で、処置してゆくことが容易にできるようになる子どもとして成長していくようにとの配慮も必要だと思います。あまり大人が察しよくするために、依頼心が強く、自分でできることもしないことが多くなり、幼稚園の生活に入ってから自信がないために大変意欲を失う結果ともなりますので、充分注意して育てていただきたいと思います。いざとなれば心配することもなく、規則正しい生活が送れるように、先生も子どもも一緒になって考えて進んでいける毎日こそ望ましいことであると思います。

子どもたちをみつめておりますと、大人よりもずっと素直な表現を、野に咲く花を見ても、散っているもみじの葉一葉でも、〝先生きれいでしょう〟と、そっと渡して走り去ります。輝いたあの瞳を大切にしてあげなければ、としみじみ教えられる毎日でございます。幼稚園生活になれて、活動的になっていけば、自分から進んで、よろこんで話し、書き、歌うことなどこちらがとまどうほどに積極的な姿に変わります。お母様方にも、それまで待っていてくださいとお願いいたすことも、入園前の私たちの保護者への心くばりであると存じます。

もう一つ、具体的な疾患などあるお子様は、入園前に充分治療しておくように話し合うことも、大切なことと思います。このようにして二回行ないます一日入園が、新しく入園してくるお子様にもお母様にも、何か役立つことと思いますので今後もつづけてまいりたいと思います。

（十文字幼稚園）